

広島大 留学生が瀬戸内海の安芸灘諸島を訪問

広島大学は5月23日、同大短期交換留学プログラム(HUSA)留学生を対象とした



上蒲刈島「県民の涙」輝きの館前で記念撮影

「安芸灘とびしま海道・国際交流歴史ツアー」を企画し、14カ国36人が参加した。「グローバル化支援インターンシップ」(国際センター国際教育部門・恒松直美准教授担当)授業の一環として行われた同ツアーで、留学生は瀬戸内海に浮かぶ下蒲刈島・上蒲刈島・大崎下島を訪問し、広島県呉市産業部観光振興課や地元観光ボランティアの案内で地域に残る日本の歴史的資産や文化に触れる体験を持った。下蒲刈島では江戸時代、朝鮮通信使が来日した際の盛大な歓迎を再現した松濤園を見学したほか、江戸時代の茶室を移築した白雪楼でのお茶会の体験を持った。また国際観光ガイドにも挑戦し、日本文化・歴史を来訪者に伝える学びの場ともなった。大崎下島の港町・御手洗では、呉市の職員と交流しつつ町並み保存地区を散策し、江戸時代の物流の歴史や文化を学んだ。同島の住吉神社や恵比須神社では観光振興課の神垣進課長による地域にまつわる話に聞き入った。今回のツアーは、留学生にとって、地域に残る日本文化を肌で感じるとともに、地域や呉市職員の方々の温かいおもてなしの心に触れる思い出深い体験となった。

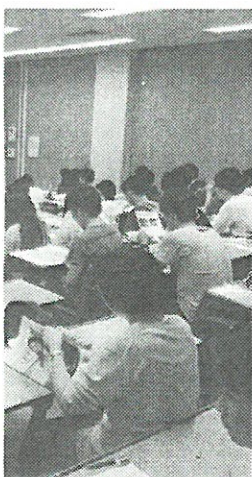
◆平成27年度ホームステイ・プログラム 大分大 留学生とホストファミリーの交流会



みんなで記念撮影!

大分大学では5月24日に「平成27年度第1回大分大学留学生とホストファミリーの交流会」を且野原キャンパスにおいて開催した。この交流会はホームステイを希望している留学生とホストファミリーあるいはホームステイに関心のある地域住民との交歓・親睦が目的で、同大国際教育研究センターと大分大学生協同組合が共同で実施している。今回の参加者は、ホストファミリー4家族(9名)と留学生20名、計29名だった。交流会は坂井国際教育研究センター次長の挨拶で始まり、続いてホームステイを体験した留学生2名が、クイズミニングや農作業等の貴重な経験、温かい交流ができたこと等を報告した。ホストファミリーからも、「以前も参加したが、その留学生ともいまだに交流がある。また他の留学生と交流が出来るのが楽しい」との感想や報告があった。次に、3グループに分かれて座談会を行い、お互いに率直な質問や意見を交換するなど、楽しい時間を過ごしていた。これからホームステイを体験しようとする留学生にとって、日本の家庭、家族とはどのようなものか、また、ホームステイに参加する際にどのような心配りをすればよいのか等様々な情報や知識を得ることが出来る貴重な時間となった。

広島大 TOEFLスキルアップセミナー



会場

広島大学は5月30日、TOEFLテスト日本事務局である国際教育交換協議会(CIEE)日本代表部と共催し、東広島キャンパスでTOEFLスキルアップセミナーを開催した。当日は、広島県内の大学および高校から学生・教職員73人の参加者があった。

同セミナーでは、ETS公認トレーナーの五十峰聖氏(立命館アジア太平洋大学)による、TOEFLテストの概要説明や、